
旅人～聖と闇を操る者～

時乃 刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

旅人〜聖と闇を操る者〜

【Nコード】

N3340W

【作者名】

時乃 刹那

【あらすじ】

親友と二人で異世界トリップ!?「この世界を助けてください勇者様。」召還の巫女に二つ返事で答える「柳 光」(やなぎ ひかる)。「おれ?凡人の俺には無理ですから」実は、家業の古武術をこっさりひっそり習って、人外レベルですけどね・・・
こっさり、帰り方を探しに出発させてもらいます。

プロローグ（前書き）

秘密が一杯な主人公。夜神 輝（やがみ こう）様です。

プロローグ

毎朝の恒例行事である、家業の武術の訓練をして学校に登校する。

おれは、こんな昔ながらの風習があまりすきではない。だから、家に友達を連れてきたことがない。

夜神^{やがみ} 輝^{こう}16才は学校に行く途中の駅親友と呼べるかも知れない腐れ縁の「柳 光」（やなぎ ひかる）と一緒に登校する。こいつが超人ともいえる奴で、イケメンで頭脳明晰、運動神経抜群なお人柄もよしときた。なんだか泣けてくるよ・・・。

「おはよう、超人」光は、？マークを浮かべて「おはよう」と返してくる。「気にするな」的な意味で手を振ればうなずいて返してきた。こいつと居れば、通勤ラッシュの電車の中でもいつでも座れるお得な奴なのだ。

ちよつと黒いことを考えながら学校へ向かう。

そう、いつもの光景のはずだった。昨日までは・・・。

それは、いつも道理に平々凡々ライフを満喫して光と駅に向かつて雑談をしながら歩いてると、光を中心にまるで魔法陣かのような光る文様が浮かび二人を飲み込んだ。

そこで、二人の意識はブラックアウトした。

プロローグ（後書き）

まだまだいきます。

召喚（前書き）

いよいよ異世界の世界へ行っていきたいとおもいます。

召喚

意識がなくてどのくらいたったのだろうか……

まわりが騒がしくなってきた

ざわざわ「ゆう……きた……え？ふた……どう……
……こと」

意識が浮上してきたけどまだ目を開けず様子をつかがう。

そうやら殺気のような怪しいものはないようだ、どちらかといつと興味を好奇のような視線をかんじる。

「うつ……」
どうやら光ひかりが眼を覚ましたようだ。

「なんだ？　いったい何が起きた……？」

「おい、ひとり目を覚ましたぞ」

「ご気分はどうですか？」

まるで巫女のようなきれいな銀色の髪の女性が光に問いかける。それをきっかけにおれも起きることにする。

「うるさいな。いったいなんなんだ……」

起きていたことを悟られないように起き上がる

「輝ひかり。ここは……俺達へんな魔法陣が光って……」

「勇者様でいらっしやいますか？でもお一人も・・・いったいどっちが」

「あつ、こつちが勇者です。」

「えっ」

銀髪の巫女がおどろいて光を見る。

「はっ？勇者つてなんだよ。勝手に決めるな。」

「成績優秀、頭脳明晰、運動神経抜群のお前でなければだれだ！自信を持って言えるぞ」

「あなたが勇者様なのですね／＼／＼」

巫女さんが光の顔をみて顔を赤らめている。落としたなと思いがながらその光景を見ていた。

「で、こちらの方は勇者様ではないのですか？」

「一応確認のためにかこつちにも聞いてくる巫女さん。」

「いいえ、俺は巻き込まれてきただけです。できれば返してほしいんですが、たぶん無理でしょう？」

「はい、申し訳ありませんが返す魔法がわからないんです」

「いいえ、たぶんそうだと思っていたので・・・。それで俺はどう

すればいいですか？」

「ちょっとまで、俺抜きで何で決まってるんだよ」

「おまえが勇者であってるからいいんだよ」

「おいつ、「ぎゃあぎゃあ」言っているがそんなの無視だ。

「で、でも探せばあるかもしれない。」

巫女さんなりにおれを心配してくれるようだ、なんともできた人だ。だいたい光にハートマークのやつは俺のことなんて眼中にないのに・・・うん。いいひとだ。

「そうか、ありがとう」

「ここで話はなんですので、上にいきませんか？申し遅れました、私の名前はアルメリア・フォン・シルベスタルです」

「おれの名前は夜神 輝で、こっちが柳 光だ」

「光でいいぜ、よろしくアルメリア」ニコッ

「／／よ、よろしくおねがいますね」

ボソツ「完全に落ちたな・・・」

おれたちは、召喚の間と呼ばれる地下から上の部屋へ移動することにした。移動の間に見た窓から見た光景の町並みを見るに、中世のヨーロッパ並みの生活に近いと予想を付けながらあとをついていっ

た。

召喚（後書き）

時間がかかりますが、一週間に一回は更新できるように頑張りたいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3340w/>

旅人～聖と闇を操る者～

2011年11月13日22時29分発行